

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2023. 3. 4

No. 688

2023年春闘収入動向を行う

本部は3月3日、交渉を行いました。以下、報告します。

1. 収入動向「対計画△954百万円（90.2%）」

・コンテナ

新型コロナウイルス感染症及び原材料費高騰に伴う物価上昇による消費の低迷、BCPによる鉄道利用率の見直し等に加えて、強い冬型の気圧配置による風雪害の影響を受け、全ての品目で計画を下回った。各品目風雪害の影響に加えて、食料工業品は、各種製品値上げ実施後の販売不振や清涼飲料水等のブロック自給率向上により減送となり、△157百万円となった。積合せ貨物は、BCPによる他モード併用及び企業間物流低迷の影響を受け、△126百万円となった。化学工業品は、自動車部品の原料となる樹脂等が低調となり、△79百万円となった。自動車部品は、自動車各社部品調達難は緩和傾向も生産が不安定な状況が続き、△67百万円となった。農産品・青果物は、米需要の低迷等により、△64百万円となった。

コンテナ全体では、対計画△863百万円（89.8%）となった。

・車扱

石油は、需要がコロナ禍前の水準まで回復していないことに加えて、特に中旬に気温が高く推移した（1月中旬平均気温平年差：関東甲信地方+2.6℃、東北太平洋側+3.1℃）ことから、灯油を中心に計画を下回った。車扱全体では、対計画△92百万円（93.2%）となった。

なお、対前年（コンテナ・車扱い合計）では、△566百万円（94.0%）となっている。

2. 輸送量動向

コンテナは、新型コロナウイルス感染症および原材料費高騰に伴う物価上昇による消費の低迷の影響に加えて、強い冬型の気圧配置による風雪害の影響を受け、農産品・青果物を除く全ての品目で前年を下回った。化学薬品および化学工業品は、樹脂等の需要減や風雪害の影響を受け減送となったほか、紙・パルプは、紙需要減に伴う生産減等により低調となった。積合せ貨物は、風雪害の影響を受けブロックトレインに運休が発生したことや、輸送障害に備えた他モード優先利用により前年を下回った。食料工業品は、風雪害の影響に加えて、飲料等の値上げの影響により消費が伸びず低調に推移した。一方、農産品・青果物は、本年は北海道地区で玉葱の収穫が平年並みであり、作柄不良であった前年を上回った。コンテナ全体では前年比94.2%となった。

車扱は、前年に比べ気温が高く推移し灯油を中心に石油が前年を下回った。車扱全体では前年比96.9%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比95.3%となった。

(営業部)

- 組合・経営状況が一向に上向きにならないが、コロナ・世界情勢という理由だけで片付くのか。
「良い商品を提供出来ていない」「荷主の要望に答えきれていない」「営業活動が滞っている」等、様々な問題があるのではないか。
- 会社・コロナ・世界情勢という理由だけで片付けようとは思っていない。近年、甚大な災害が連続して発生することで、企業がBCP対策として他の輸送モードを選択するということもある
- 組合・他の輸送モードに負けないよう、営業活動を積極的に行って頂きたい。
- 会社・鋭意、努力していく。
- 組合・今年度も残すところあと1ヶ月となった。営業収入において計画通り（1月改定数値）見込めそうか。
- 会社・目標の達成は厳しい。
- 組合・グループ会社の状況はどうか。
- 会社・同じく、グループ会社も厳しい状況である。
- 組合・2022年度連結経常利益は、かなり厳しい数値になりそうか。
- 会社・近年にない、かなり厳しい数値になる見込みである。
- 組合・経費が増えていると聞かすが何の経費が増えているのか。経費節減には取り組んでいるのか。
- 会社・安全に関する投資や将来に向けての投資は行っている。経費節減も取り組んでいるが、必要な設備投資は行っている。
- 組合・輸送コストが上がっていると思うが、運賃改訂は考えているのか。
- 会社・運賃改定は、現時点考えていない。
- 組合・2024問題があるが、すでに営業活動強化を図っているのか。
- 会社・2024年問題を迎えるにあたり、鉄道にシフトしてもらえようパンフを作成し、個別に営業に取り組む等の強化を行っている。また、これまで鉄道の比率が高くなかった中距離輸送のニーズも期待できることからターゲットを拡大していく。
- 組合・西日本豪雨があった2018年度でも、連結経常利益45億を確保した。2019年度は回復したが、コロナが始まった2020年度から右肩下がりが続き、回復する気配が一向に見られない。ピンチをチャンスにという言葉があるが、JR貨物のブランド力を失わないためにも、2023年度に向けて具体的な打開策等はあるのか。
- 会社・コロナの影響や物価上昇、原材料等の高騰がある一方で、2024年問題やカーボンニュートラルといった追い風のニーズもしっかりと捉えていきたい。貨物鉄道の特性を活かせる世の中の動向を捉え営業活動に取り組んで行く。
- 組合・コロナが収束しても、しばらくは厳しい状況が続くと考えられ、相当厳しい営業活動が続くと思うが、この窮地を打破するべく鋭意努力して頂きたい。私達は安全安定輸送に努めていく。
- 会社・引き続きよろしく願います。

(人事部)

- 組合・近年にない非常に厳しい状況と営業部から説明があった。組合としてもその状況は理解しているが、そのような中でも昼夜を問わず懸命に業務を遂行している組合員がいることを理解して頂きたい。
- 期末手当が低調な結果に終わり、人事制度に対しても不安や不信を抱く者も多くおり、「この窮地を労使が一つになって盛り上げていこう」という雰囲気になっていない。
- 「会社の状況が厳しいから我慢して頂きたい」では、経営陣が無能と言わざるを得ない。厳しい時こそ経営陣の手腕が試され、将来に向け安心して働ける職場づくりを展開してくのが経営陣の責務である。JR貨物が飛躍するためには、組合員の協力が不可欠なことは重々承知していると思うが、JR貨物のブランド力をさらに上げるためにも、次回の交渉（会社の考え）では、誠意ある考えを強く求める。
-

会社・主張は受け止める。本日の議論をもとに、改めて社内議論を行っていく。
組合・何度も言っているが、他の企業は賃金改善を進めている。飛躍し魅力ある企業にするため・
優秀な人材を確保するためにも、誠意ある回答をお願いしたい。
会社・主張は受け止める。
組合・次回交渉（会社の考え）は、3月10日でよいか。
会社・3月10日となる。

以 上